

◆新学習指導要領指導案◆

歴史に挑戦

「土佐藩の浪人が京都で殺害される！」を活用した歴史家体験活動

愛知教育大学教授 土屋武志

人への関心を高め、社会を読み解く力をつける歴史家体験

下の図は、平成24年度用『社会科 中学生の歴史』（以下、新教科書）のp.148～149「歴史に挑戦 土佐藩の浪人が京都で殺害される！」の全体構成である。この教材は、現行教科書にもある「歴史に挑戦」シリーズを、思考・表現型の教材としてさらに充実させたものであり、そのコンセプトは「歴史家体験」である。

社会科教師の間では、歴史学習で体験学習を取り入れることは難しいといわれる。歴史学習は過去のことを扱う。出来事はすでに終わっており、タイムマシンがない現在、それをリアルタイムで再び体験することは不可能

だからである。しかし、歴史学習は、過去の出来事をひたすら暗記する学習だと捉えては、歴史学習の大切な部分を見失ってしまう。歴史学習は本来、過去の情報を読み解き、それを組み合わせて歴史を描く歴史家体験活動であり、また生徒同士の対話を基本とする学習活動である（詳しくは拙著『解釈型歴史学習のすすめ—対話を重視した社会科歴史』梓出版社参照）。生徒同士の対話にもとづく歴史家体験活動によって、生徒たちは社会をつくっている人々への関心を高め、人々がつくり出してきたいまの社会の特徴や大切さを読み解く力がついていく。新教科書では、「歴史に挑戦」のコーナーで多様な歴史家体験活動を提案している。

The image shows a page from a textbook titled "歴史に挑戦" (History Challenge) with the main theme "土佐藩の浪人が京都で殺害される!" (A samurai from the Satsuma Domain is killed in Kyoto!). The page is divided into several sections:

- 歴史に挑戦** (History Challenge): Introduction to the topic, including a map of the Satsuma Domain and a timeline of events.
- 146 名聞** (146 Name): A section about the concept of 'name' (名聞) and its importance in the samurai culture.
- 147 名聞** (147 Name): A section about the concept of 'name' (名聞) and its importance in the samurai culture.
- 148 名聞** (148 Name): A section about the concept of 'name' (名聞) and its importance in the samurai culture.
- 149 名聞** (149 Name): A section about the concept of 'name' (名聞) and its importance in the samurai culture.
- 150 名聞** (150 Name): A section about the concept of 'name' (名聞) and its importance in the samurai culture.
- 151 名聞** (151 Name): A section about the concept of 'name' (名聞) and its importance in the samurai culture.
- 152 名聞** (152 Name): A section about the concept of 'name' (名聞) and its importance in the samurai culture.
- 153 名聞** (153 Name): A section about the concept of 'name' (名聞) and its importance in the samurai culture.
- 154 名聞** (154 Name): A section about the concept of 'name' (名聞) and its importance in the samurai culture.
- 155 名聞** (155 Name): A section about the concept of 'name' (名聞) and its importance in the samurai culture.
- 156 名聞** (156 Name): A section about the concept of 'name' (名聞) and its importance in the samurai culture.
- 157 名聞** (157 Name): A section about the concept of 'name' (名聞) and its importance in the samurai culture.
- 158 名聞** (158 Name): A section about the concept of 'name' (名聞) and its importance in the samurai culture.
- 159 名聞** (159 Name): A section about the concept of 'name' (名聞) and its importance in the samurai culture.
- 160 名聞** (160 Name): A section about the concept of 'name' (名聞) and its importance in the samurai culture.

2 「土佐藩の浪人が京都で殺害される!」の学習指導案

- (1) ねらい 情報を読み解き、情報をもとに歴史を描かせ、歴史的思考力を育てる。
 (2) 指導計画

	学習内容・活動	指導上の留意点
導入 5分	<p>①写真の人物はどのような人物だろうか？</p> <p>●人物の写真（①殺害1か月前の坂本龍馬の写真）を見てどのような人物か、写真からプロファイリングする。</p> <p>・写真から気づいたことをノートに箇条書きで書き出し、ペアやグループ等でそれを出し合い、どのような人物か予想する。</p>	<p><関心・意欲></p> <p>●性別・年齢・職業・生活・撮影動機等について些細なことでもよいから気づいたことを書き出すようにアドバイスする。</p> <p>・撮影動機について相談するよう指示する（年齢については、予想させた後で、31歳で死亡したことを告げる）。</p>
展開 25分	<p>②挑戦状を読む</p> <p>●挑戦状を読んで、何をなすべきか、挑戦状で指示された事項に印をつけて課題を明確にする（挑戦状から情報を読み解く）。</p> <p>③必要な情報を予想する（見出しの読み取り）</p> <p>●課題を解決するため、情報①～③のうちどの情報に注目するか予想する。</p> <p>④情報を読み解く</p> <p>●最初に読むと決めた情報について、その文中で、課題の答えの根拠となりそうな箇所印をつける。</p> <p>●最初に読んだ資料以外の資料も同様に</p>	<p><資料を読む技能1></p> <p>●暗殺を命じた人物または組織、殺害された理由（暗殺動機）を考えることが課題であることを確認させる（何名かの生徒に発言させて課題を確認する）。</p> <p>・土佐藩（=いまの高知県）出身の侍が京都で暗殺された点はその時代の政治的な背景を感じさせる事件であることを助言する。</p> <p><資料を読む技能2></p> <p>●どの情報に注目してもよいが、挑戦状に答えるためにまず最初に読みたい資料はどれか？と指示する。</p> <p><思考・判断・表現1></p> <p>●情報③を選択した生徒には、幕府・土佐藩・長州藩・薩摩藩のそれぞれの説明の中に暗殺動機と考えられる箇所を探すよう指示する。</p> <p>●活動が進んだ生徒や「大政奉還」の意</p>

地理

歴史

公民

図画

社会科

読み、印をつける。

●印をつけた箇所はどこが最も重要か考え、1つ選んでその箇所に①と印をつけ加える。次に重要な箇所に②と印をつける。

●ペア（隣同士）もしくはグループでどこに印をつけたか、紹介しあう。

⑤挑戦状への答えを書き、発表する。

●ノートに挑戦状への答えを書く。

●ペアもしくはグループで発表する。

●ペアもしくはグループで2つの説を決め、クラスで発表する。

⑥クラス討論

●どの説がもっとも可能性が高いか、クラスで討論（対話）する。

・異なる説について、なぜ異なるのか見方の違いの原因をさがす。

味がわからない生徒等は、新教科書の前のページを見て参考にしてよいことを伝える（進んで参照する生徒がいるとなおよい）。

*生徒の習熟状況に即して、活動に慣れていない場合は、上記の活動は、情報①から順番に行わせてもよい。

●自分なりの根拠を持って選ぶよう指示する。

●異なる結論であってもよいことを確認する。

<思考・判断・表現2>

●暗殺を命じた人物または組織、殺害された理由（暗殺動機）について、簡潔に答えること（簡条書きでよい）、その根拠となる情報を示すことを指示する。

●第1の理由は…第2の理由は…など論理的に説明させる。

●ペア活動の場合は1つでもよいが、できる限り2つの説（多数意見と少数意見）が出るようクラスで発表させる。

<思考・判断・表現3>

●挙手させて、幕府説・土佐藩説・長州藩説・薩摩藩説・その他のどれが多数でどれが少数か確認する。

・クラス全体が最初から1つの説になったときは、教師が少数意見を述べる。

・多数意見と少数意見について、根拠となる情報への見方や評価が異なることによって、異なる説になることに気づかせる。

まとめ

⑦異なる意見があることを踏まえて、挑戦状への回答文を書きなおす。

●文章としてまとめる。

<思考・判断・表現4><知識・理解>

●生徒の文章力が十分でない場合は、次

20分

- 自分の回答文に小見出しをつける。
- 用いた歴史用語や歴史上の人物名にアンダーラインを引く。

●ペアもしくはグループで文章を相互に交換して読み合い、コメントをつける。

●「さらに深めてみよう！」に挑戦する。

のような書き出しを参考にするよう助言する。

・この浪人は、…に役割を果たした人物である。

・その彼を暗殺したのは…である。

・なぜなら情報…によると…と考えられるからである。

・一方、…が犯人という説もある。

・しかし、私が…を犯人と考える理由は、情報…により、この時代は、…のような時代だったからである。

●よくまとめられたと思われる文章をペアもしくはグループで選ばせ、クラスに紹介させる（読み上げさせる）。

●龍馬の死の翌年に明治になることを伝え、「さらに深めてみよう！」を活用してp.150～171を各自で予習するよう助言する。

(3) 評価

思考・判断・表現力の評価は、挑戦状への回答文を用いて行う。

単純に事実のみを描いている文章より、2つの説を比較して総合的に判断している文章を高く評価する。また、歴史用語を適切に用いて表現しようとしている文章も高く評価する。さらに、最初の箇条書きより文章化した方がよりわかりやすくなった生徒は、表現力ののびを評価する。ペアやグループ活動の観察により、他者の意見をよく聞き積極的にコメントする生徒については、クラス討論（対話）での発言を促すなど、表現力をさらに高めるよう支援する。

3 さまざまな活動

「歴史に挑戦」で行う学習活動は、生徒の習熟状況に応じてバリエーションが設定できる。普段から発言力をつけているクラスの場合は、ペア活動やグループ活動は不要である。情報の読み解き活動が少ないクラスの場合は、情報①から順番に1つ1つ読み解く方法がよいだろう。挑戦状への回答文も、文章表現に習熟しているクラスの場合は、書き出し部分を指示しなくとも「歴史家としてあなたの説を述べなさい」のような課題の出し方でもよい。逆に文章表現活動が少ないクラスの場合は、「写真の浪人に手紙を書くならどんな手紙を書くか？」のような活動も考えられる（ただし、それは歴史を変える危険があることを説明したうえで、未来からの手紙だとわからないように書くことを指示する）。これも歴史を描く1つの方法である。